

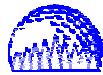
5月・6月の管理ポイント



5月は新緑の季節で芝生が最も元気な時期です。

灌漑対策を万全にして、根をしっかりと伸ばしておきましょう。

6月の梅雨時期は、日照不足と降雨で土壌中の酸素濃度は低くなります。糖類を補給し、サッチ層を除去して通気性の良い状態に努めましょう。



プライマーセレクト

梅雨の排水対策には...

5月は芝生の根をしっかりと伸ばす大切な時期です!!

グリーンの表層を少し乾燥気味にして、根に軽いストレスを与え水分のある下層にまで伸ばさせます。

プライマーセレクト処理によりマトリックスフローを形成させますから、表層を乾燥状態にしても、一度の灌水で均一に水が浸透しますから安心して灌漑管理をして下さい。

散水のポイントとしては、毎日軽く散水を行なう場合よりも(根域にストレスがかからない)、回数を減らして一度に十分な散水を行なった方が(根域に軽いストレスがかかる)、根域が深くなります。

6月は、梅雨のため土壌が飽和状態になります。プライマーセレクト処理で余分な水を排水させましょう。

使用量：1~2ml/m² 散布水量：200ml~1L/m² 散布回数：1ヶ月~1ヶ月半に1回



サッチ・リムーバー 光合成細菌

サッチ層の除去には...

梅雨前の更新作業時に**光合成細菌**と**サッチ・リムーバー**を組み合わせることによって、サッチを効率よく分解し、通気性の良いグリーンをつくりましょう。

使用量：1~2g/m² 0.5L/m²散布 使用回数：月1~2回



コ・エンザ

梅雨時期のストレスのかかった芝生には...

梅雨時期は日照不足のため植物の活性が低下し、芝生も軟弱になります。

コ・エンザ処理により、植物内の酵素反応を潤滑にし、弱った芝生の回復をて助けましょう。

使用量：ベント1~2g/m² 1L/m²散布 コウライ3~4g/m² 1L/m²散布



ダイアジノンSLゾル・バイボン乳剤

害虫発生にあわせて...

5月はシバオサゾウムシ、スジキリヨトウ、シバツトガ成虫が活動を開始します。

速効性の**バイボン乳剤**で防除しましょう。

6月中旬以降はセマダラコガネ、マメコガネ成虫が発生します。

更新作業にあわせて**ダイアジノンSLゾル**を処理し、若令幼虫のうちに防除しましょう。

使用量：ダイアジノンSLゾル 250倍 0.7~1L/m²、バイボン乳剤 2000倍 0.3~0.5L/m²



グリーンメカ・マリンパワー

日照不足を補うために、芝生や有用菌のえさとして...

梅雨は日照不足にともない、芝生の光合成が低下していきます(糖類生成量減少)。

黒糖、各種ミネラルの豊富な**グリーンメカ**で不足しがちな糖類を補ってあげましょう。

光合成細菌と**マリンパワー**を組み合わせることによって、嫌気性の土壌(排水の悪いどぶ臭い土壌)を改善し好気性の有用菌を定着させましょう。

使用量：グリーンメカ 5~10ml/m² 1L/m²以上 マリンパワー 2~4ml/m² 1L/m²以上

土壌pHによる肥料吸収の影響について

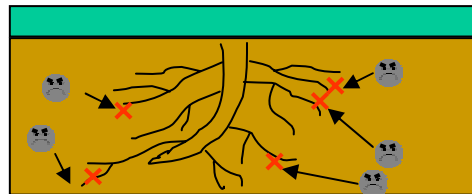
土壌診断を行う時に重要な指標とされているものにpH（水素イオン濃度）があります。土壌が酸性なのかアルカリ性なのかによって肥料の吸収にも大きく影響してきます。

酸性土壌の場合

活性アルミニウムの影響

①アルミニウムイオンの害

pHが5以下になると、土壌中のアルミニウム化合物が溶解し、溶解したアルミニウムイオンが根の細胞を破壊する。

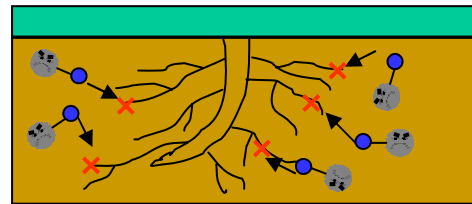


①アルミニウムイオンが根の細胞を破壊する

アルミニウムイオン

②リンの欠乏

溶解したアルミニウム化合物が土壌中のリン酸を吸着してしまうので根からのリン酸の吸収を阻害する。



②リン酸アルミニウムは根に吸収されにくい

リン酸アルミニウム

養分の欠乏

①有用な塩基類の減少

カルシウム(Ca)、マグネシウム(Mg)、カリウム(K)などの塩基は、アルミニウム(Al)と同様に溶解し、散水、降雨などにより下方へ流失する。

②ほう素(B)、モリブデン(Mo)の欠乏

酸性土では、ほう素は溶解度が大きくなって溶脱しやすく、逆にモリブデンは溶解度が小さくなって可溶性のものが少なくなる。

アルカリ性土壌の場合

①根の水分吸収を阻害

土壌中の塩類濃度が高くなり、根の生理作用に影響を及ぼし、水分吸収が阻害される

②鉄(Fe)、マンガン(Mn)、亜鉛(Zn)などの微量元素の吸収阻害

土壌中で、水に溶けない形で存在するため、根に吸収されにくい。